

motto知って👁👁 motto愛して❤️  
自分たちの地域のこと。

<政策研究会Aグループ>

福島県	酒井昭宏	福島県	柳沼さおり
田村市	齋藤貴宏	田村市	渡邊友香里
三春町	服部佑亮		

1. 田村市の「スキマ」とは？
2. 私たちからの提言（事業提案）
  - ・ 地域担当職員制度
  - ・ マッチング制度
3. おわりに

1. 田村市の「スキマ」とは？
2. 私たちからの提言（事業提案）
  - ・ 地域担当職員制度
  - ・ マッチング制度
3. おわりに

# 田村市の「スキマ」って？

＜地域の現状＞ 人口減少、少子高齢化、若年層の転出、個人主義の浸透などにより、地域行事・活動の担い手が不足

◇中心部・・・行政区（組）加入率の低下、「隣組の精神」の衰退  
（自分たちの住みよい環境は自分たちの手でつくろう、という思いの変容）

◆周辺部・・・人口減少や高齢化の中でも地域活性化に向けた取組み  
（一方で、特定のプレーヤー（キーマン）への依存？）

➔ これまで地域に自然に存在した人が集まる「機会」「場」の喪失

地域のつながり（人と人とのつながり）が希薄化＝「スキマ」



《 **住みよい地域にするには・・・？** 》

# 行政にできることは？

**コミュニティ意識**を育て、維持していくことで、住みやすさ（生活の質）を向上させることができるのではないか。

コミュニティ意識 = 《お隣さん意識》 《向こう三軒両隣の精神》 《近助の精神》

→ 福祉や防災、災害対応など様々な場面において重要視されている！

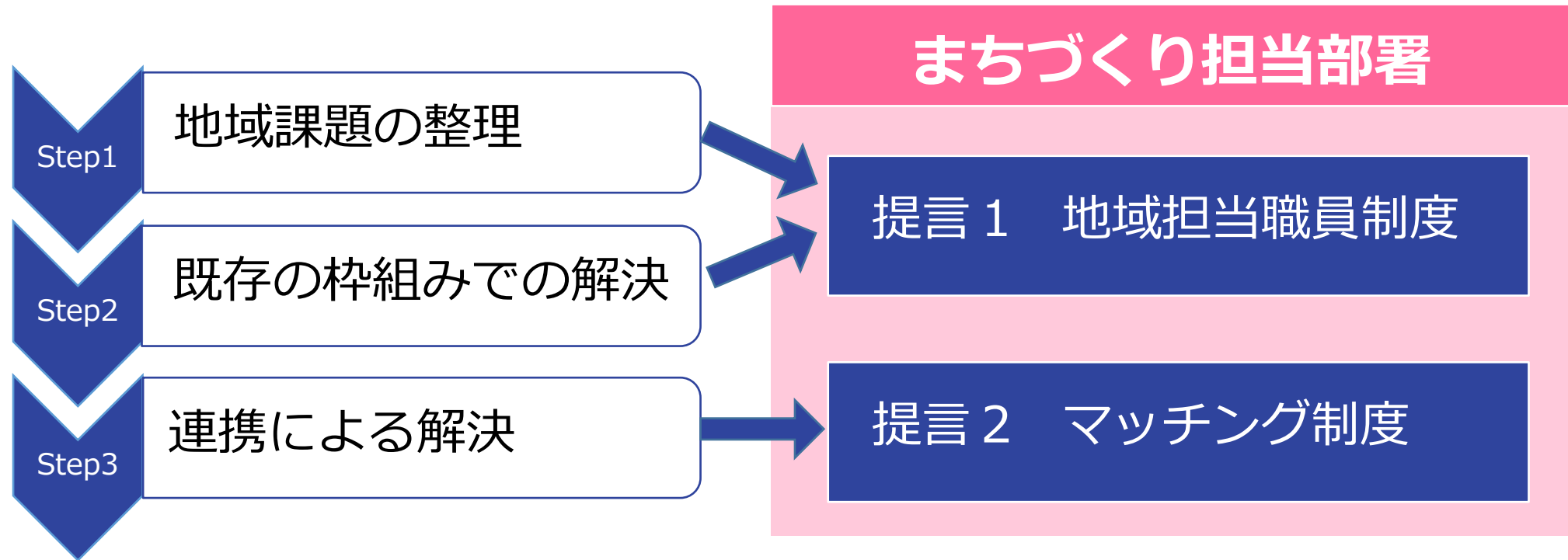
地域の現状を踏まえ、これまでよりも一歩踏み込んだ施策の必要性

- 行政が積極的に地域に関与していくこと。
- 行政職員が当事者意識を持って地域に関わっていくこと。

**地域課題の解決に向けた支援（時には行政がリード）**

1. 田村市の「スキマ」とは？
2. 私たちからの提言（事業提案）
  - ・ 地域担当職員制度
  - ・ マッチング制度
3. おわりに

**<現状>** 地域課題について、住民も行政も整理できていない状態



**<ゴール>** 地域コミュニティの維持による住みよいまちづくり

## 提言1 地域担当職員制度

旧小学校区単位で地域と市役所の架け橋となる「地域担当職員」を配置する。地域担当職員は地域課題の解決に向け、住民とともに取り組む。

地域活動を円滑に行うための  
“土台づくり”

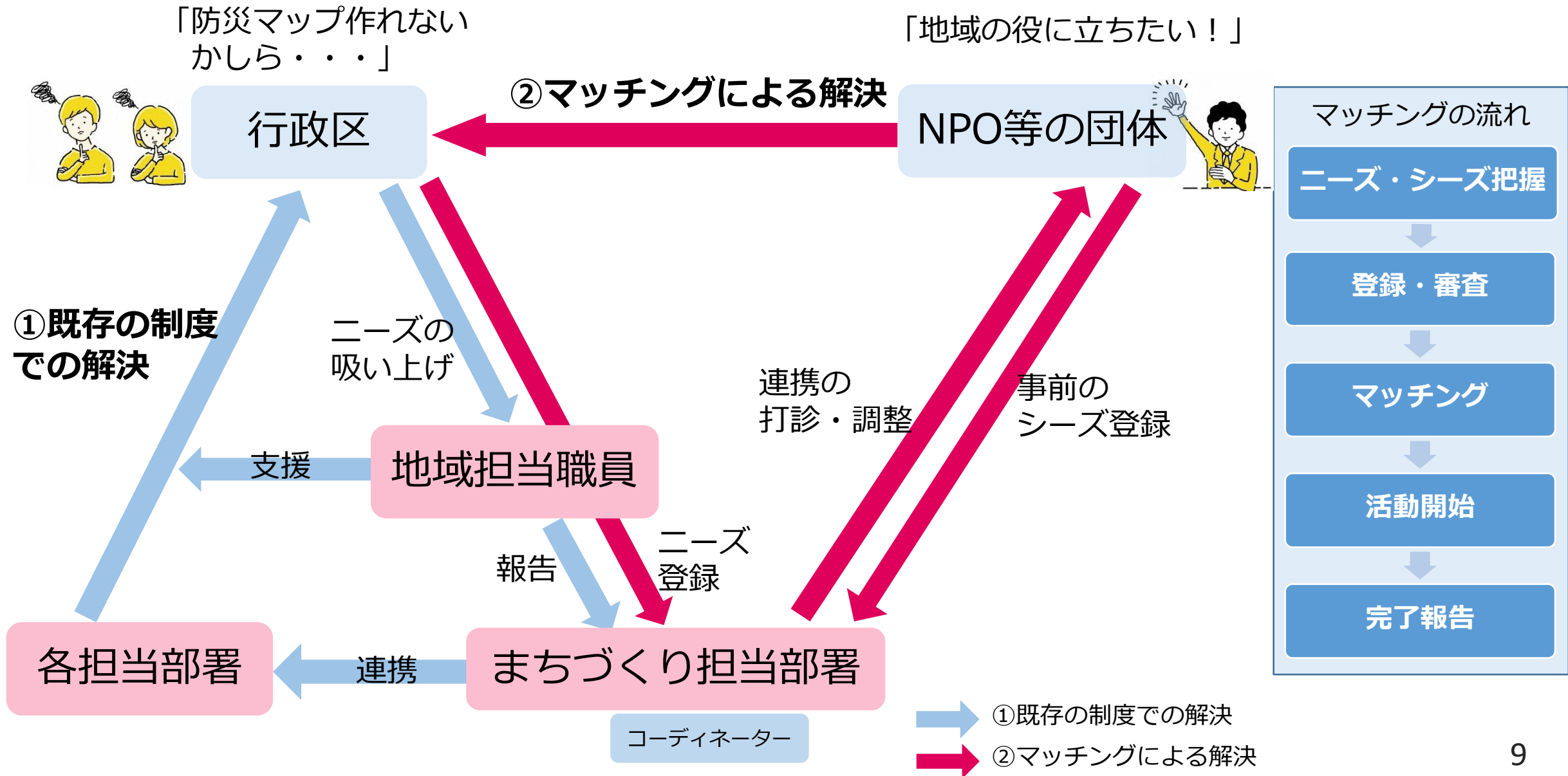
## 提言2 マッチング制度

地区単体では課題解決が難しい場合に、他団体との連携により解決を図るためのシステムを構築・運用する。

地域活動の  
“新たな担い手の確保”



# 提言全体の具体イメージ



1. 田村市の「スキマ」とは？
2. 私たちからの提言（事業提案）
  - ・ **地域担当職員制度**
  - ・ マッチング制度
3. おわりに

# 提言 1 地域担当職員制度 (1) 概要①

Step1

## 地域課題の整理

Step2

既存の枠組みでの解決

Step3

連携による解決



- ・全職員を配置（現業部門を除く）
  - ・1行政区あたり3人を目安に
  - ・担当職員の仕事は業務と位置づけ
- （参考）習志野市地域担当制実施規則

◎ **そもそも自分たちの地域の差し迫った課題は何か？の整理が難しい。**  
**地域担当職員が地域課題の整理をサポートし、今後の道筋を立てる。**

- ・ 意見収集 …住民や区長から随時（会合等に参加）  
コーディネートゲームの活用
- ・ 議論の進行補助 …課題整理に向けた話し合い
- ・ 情報提供 …他地域での取り組み等
- ・ 活動機運の醸成 …地域活動の企画や参加を通して

# 提言 1 地域担当職員制度（1）概要②

Step1

地域課題の整理

Step2

**既存の枠組みでの解決**

Step3

連携による解決

◎ 整理した地域課題について、地域づくり担当課に報告

⇒ 地域づくり担当課は既存の枠組みで対応できる方法がないか検討

- ・ 市の各担当部署で対応できないか調整
- ・ 補助金の活用（担当職員が情報提供・申請書作成をサポート）

もし、既存の枠組みで対応できない場合は？

⇒ 制度の見直しや行政区外との連携による解決ができないか検討する

# 提言1 地域担当職員制度（2）他の自治体での取り組み

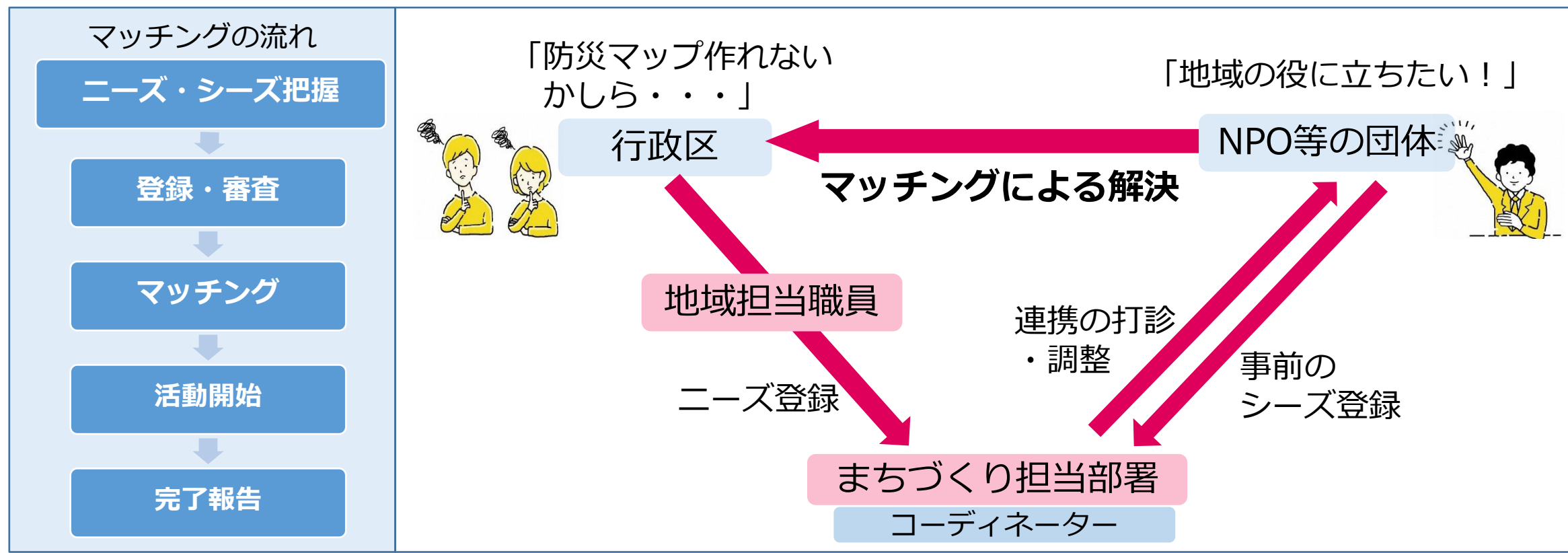
## ～他自治体との比較～

市町村名	人口(人)	専任/ 併任	職員数 (人)	地域担当 職員数(人)	地区数	配置単位
田村市	34,000	併任	355	277	26	町村合併前の 旧小学校区
習志野市 (千葉県)	171,000	併任	809	563	16	小学校区
高浜市 (愛知県)	47,000	併任	276	20	5	小学校区
新座市 (埼玉県)	165,000	併任	756	361	61	町内会単位
三田市 (兵庫県)	114,000	専任	509	18	9	各地区の 拠点施設

1. 田村市の「スキマ」とは？
2. 私たちからの提言（事業提案）
  - ・ 地域担当職員制度
  - ・ マッチング制度
3. おわりに

- Step1 地域課題の整理
- Step2 既存の枠組みでの解決
- Step3 **連携による解決**

既存の枠組みで行政区単体での解決が図れない場合、  
他団体との協働により「地域での解決」を検討  
⇒ マッチング制度 ※制度自体の見直しも併せて検討



## 提言2 マッチング制度(2) 連携先の団体①

◎市内に連携できる団体はあるか? ⇒ **13の「NPO法人」が活動中**

「NPO法人」とは：特定非営利活動促進法に基づき設立される法人で、

法で定められた20の分野の社会貢献活動を主目的に活動する団体。

### 主に「福祉の増進」を目的とした団体

NPO法人あぶくまヒューマンネット絆／特定非営利活動法人ケアステーションゆうとぴあ／特定非営利活動法人銀河の森福祉会／特定非営利活動法人田村希望の里福祉会／NPO法人福島県障がい者スポーツ支援ネットワーク／NPO法人サポートたむら／特定非営利活動法人船引フォーラム

### 主に「地域づくり」を目的とした団体

特定非営利活動法人福島おらが街ふるさと創り研究会／特定非営利活動法人蓮笑庵くらしの学校／NPO法人くらすタ／特定非営利活動法人たむら憩の森プロジェクト／特定非営利活動法人福島台湾経済文化交流協会




## 提言2 マッチング制度(2) 連携先の団体②

◎これらの団体と連携できる可能性についてヒアリング

⇒13団体中、12団体から「連携の可能性・必要性がある」との回答

### 団体にヒアリングした結果(一部)



ご近所付き合いをもっと進めたい。  
災害等の有事の際の対応協力や、  
見守りなど協力・連携できればと思う。  
(NPO団体Aより)

利用者からの相談によって自治会と  
連携している。顔の見える関係は大切。  
旧町内くらいの範囲で連絡協議会  
(行政・自治会・NPO等)があると助かる。  
(NPO団体Bより)

住民が必要とすることであり、  
団体の事業目的と大幅な相違がなければ、  
活動の幅を広げる可能性はある。  
(NPO団体Cより)

独自で地域交流会を実施。  
利用者のご近所さんの交流を促進している。  
地区からの相談等あれば、  
地域行事へも参加していきたい。  
(NPO団体Dより)



NPOに対する地域の認識不足を感じる。  
(NPO団体Fより)

自治会等は高齢化の問題で  
今までのやり方が通用しなくなっている。  
行政等がそのまま放置しているのはいかがなものか。  
(NPO団体Eより)

### NPO団体へのヒアリング結果

#### NPO法人くらすた 理事長 佐原禅さんにヒアリング

##### ◎活動概要：

- ・住民主体の地域づくりの支援と、それに関わる移住や交流人口増を図る事業を行うことにより、持続的で豊かな社会づくりに寄与することを目的

##### ◎主な事業：田村市復興応援隊（復興支援員）の運営業務など

##### ◎連携にあたっての検討事項

- ・既存事業者との線引き（シルバー人材センターなど。場合によっては連携も可能か？）
- ・人材データベースの構築（地域の人材を把握する）
- ・事業開始に向けての初期費用の工面（人材データベース、労務管理・人材派遣業に係る費用等）
- ・派遣者への賃金をどうするか

##### ◎補足

- ・「行政区、地域の困り事」に加え「個人の困り事」にも対応できる体制にできれば。  
（例：地域独自の防災マップの作成、共働き夫婦を助けるために子どもの遊び相手になるなど）

## 地域担当職員制度

### ○地域担当職員の決定

- ・ 配置計画作成

### ○サポート業務

- ・ 人材育成  
(スキルアップ研修等の開催)
- ・ 担当者間の情報交換サポート

### ○内部調整

- ・ 地域課題の整理  
→課題解決に向けた庁内調整

## マッチング制度

### ○研修会、ワークショップの開催

- ・ 登録団体等の掘り起こし
- ・ 交流機会の創設

### ○マッチング業務

- ・ まずは人の手によるマッチング



デジタル化やコーディネーターの導入による**自走可能なシステム構築**

# 事業進行イメージ

- 各行政局から1地区ずつ計5地区をモデル地区に！
- マッチングは職員の手で行うところからスモールスタート⇒市内全域へ

部署一始動

「まちづくり担当」

制度設計（規則等整備、予算措置）

モデル地区選定  
地域担当職員配置

NPO等団体との  
交流会実施、連携相談

モデル地区でのマッ  
チング開始

事業効果を検証&改善

事業本格スタート

4年後

田村市内全域で

## 交流会・研修会開催関連費用 50万円

- ・ 地域課題等の掘り起こしを目的とした市民向け研修会
- ・ 職員向けスキルアップ研修会

## まちづくりに関する各種補助金の拡充 200万円

- ・ 協働のまちづくり支援補助金 150万円（30万円×5枠分）
- ・ 地域づくり応援事業補助金 50万円（10万円×5枠分）

1. 田村市の「スキマ」とは？
2. 私たちからの提言（事業提案）
  - ・ 地域担当職員制度
  - ・ マッチング制度
- 3. おわりに**

## ○地域担当職員制度の効果

- ・ 新たな地域課題の発見  
→ **より広い視点での課題解決、政策等への活用**
- ・ 当事者意識を持って地域に関わる  
→ **行政職員の意識改革**
- ・ 交流の活性化  
→ **コミュニティ意識の向上**

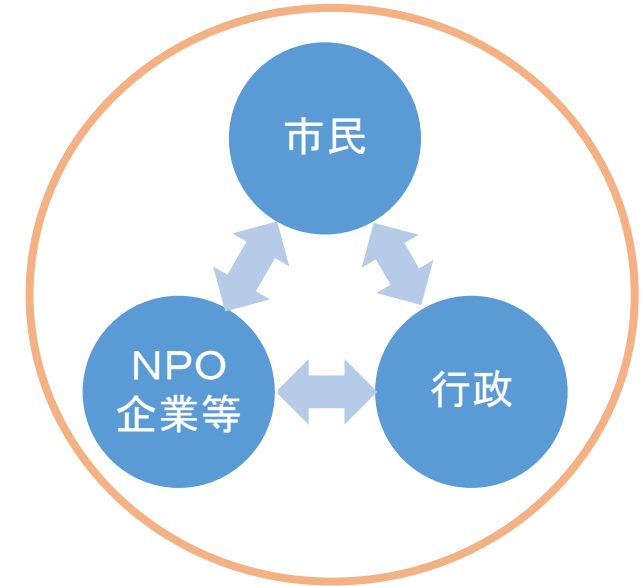
## ○マッチング制度の効果

- ・ 新たな交流機会の創設  
→ **より広域的なコミュニティの形成**
- ・ 地域内外からの協力体制  
→ **新たな担い手の確保**



**縮減社会においても住みやすい地域の維持**  
→ **災害時等の連携の下地作りにもつながる**

## 新たなコミュニティの形成



地域資源



そこに住む人  
人と人とのつながり